

離島の技能実習生から考える多文化共生

Multicultural Conviviality from the Perspective of Technical Interns on Remote Islands

水嶋健（合同会社オトナキ 代表社員）

Takeru Mizushima (Representative Partner, Otonaki LLC)

私は母の出身地である鹿児島県・^{おきのえらぶじま}沖永良部島に2020年7月に移住し、翌年8月に合同会社オトナキを設立した。親が島出身者だと、島では「えらぶ二世」と呼ばれる。2011年から2019年までベトナムでライターとして活動。以前から技能実習生の失踪問題について関心があり、島民の1%近いベトナム人実習生がいることに縁を感じて移住した。

沖永良部島は奄美群島のひとつで、東部の^{わどまりちよう}和泊町と西部の^{ちなちよう}知名町の2町からなる。外国人人口比率は、2町で群島12市町村1・2位であり、県内離島でも最多。理由のひとつは、主幹産業が観光ではなく農業であること。10年以上前から中国人を中心に実習生が働いていた。かつて興行ビザで来島したフィリピン人島民や、その二世も多い。

沖永良部島の大きな課題は、実習生の失踪である。2018年11月にwithnews（朝日新聞社）の記事『「実習生が逃げていく島」町民があえて監視を置かない「深い理由」』が公開され、島内で問題が表面化した。町議会でも議論の末、港や空港に監視を置かない結論に落ち着いた。島内の監理団体設立も検討されたが実現には至らず、行政による対策はなし。一方で民間から地域交流の動きがあり、2019年2月に住民交流会が開催され、実習生9人が参加した。2020年1月には鹿児島県と共催で交流会が行われ、40人弱が参加。それ以降はコロナ禍の影響で行われていないが、県からの打診で2022年6~7月に日本語サポーター養成講座（日本人向け）と日本語講座（外国人向け）が予定されている。後者に参加予定者が2名いるが、（実習生の大半を占める）ベトナム人は不参加。実習生を雇用する農家の間でベトナム人=怠惰のイメージが強く、インドネシア人への「切り替え」を始めたという声も聞く。

合同会社オトナキでは、COMIGRAMという多言語交流・学習ツールの開発と提供を行っている。Tシャツなどに印刷した製品や、日本の生活習慣についてのマンガ教材なども販売。また、ウェブメディア『COMIGRAMIST』で、全国各地の好事例やノウハウの記事も発信。この通り、島の現場に対して直接ではなく、島の課題を吸い上げてインターネットを通じて社会全体に対するアプローチを図ってきた。ただし今年に入ってから、行政から相談を受ける機会が増えており、6~7月に開催される日本語サポーター養成講座をきっかけに地域交流活動も予定中。

実習生の失踪につながる環境上の課題を分類すると、「田舎」「農業」「離島」に分かれる。「田舎」は賃金（県の最低賃金）が低く、イメージする日本（都会）とのギャップがある。

また、交通インフラが乏しく、言語の壁などもあり使いづらい。「農業」は、労働時間が不安定で稼ぎづらい。家族経営が多く教育体制が整っておらず、農家間で給与形態が異なり実習生側から不満の声が出ていると聞く。「離島」は、休日に繁華街などへ遊びに行けない（息抜きできない）。監理団体が島外にありすぐにフォローできない、などの要因がある。

一方で、実習後も職場などとよい関係を築く元実習生もいる。考えられる理由としては、実習後も日本で働く意思があり熱心に日本語を学んでいた、職場の同僚と関係が良好で教会や運動サークルなど地域の接点があった、実習生同士の関係が良好ではなくかえって日本人と話す時間が多かった、などがあげられる。

今後は、島生活初期段階での外国人と日本人との接点づくり（島暮らし講習会などの実施）や、ツールの普及と全国の好例の情報発信等を検討していきたい。

参考文献・ウェブサイト

withnews 「実習生が逃げていく島」 町民があえて監視を置かない「深い理由」（2018年11月19日）

<https://withnews.jp/article/f0181119003qq0000000000000000G00110101qq000018372A>

READYFOR ベトナム人実習生の失踪・過労死・自死などを解決する"Tシャツ"開発

<https://readyfor.jp/projects/gino-t>

COMIGRAM

<https://comigram.com/>